



地元のビジネススクールを体験してみませんか

福井県立大学大学院経済・経営学研究科長

徳前 元信

地元の大学院で自分自身を問い直してみませんか。経営に責任を持つようになった、魅力ある組織作りに迫られた、ヒトづくり・人材育成、新しく部下を持ったなど、学び直しのきっかけは様々です。

この講座は、社会や地域の皆さんが受講しやすいように工夫されています。

第一に、講師陣の顔ぶれです。本学の教員はもちろん、学外の専門家、第一線の経営管理者など多彩な講師陣をお願いしました。多彩な講師陣が魅力的な講座を提供してくれるはずですよ。

第二に、本講座では、座学を超える授業効果を目指します。受講者数を限定させていただき、より実践的な講義といたします。例えば、基調講義の後、グループでディスカッションを行い、その成果を報告してもらってワークショップ型の授業運営を行います。また少人数でグループワークを行う講義も予定しています。

第三には、土曜日に短期集中で開催することにいたしました。これは平日に時間を取りにくい、社会人の方々に配慮した結果です。加えて、開講期間中に、受講者間の異業種・異世代のネットワーク作りの場になるように、交流会も予定しています。

第四には、本講座は特に履修条件・予備知識を設けていません。経営学を学ぶ意欲がある方を歓迎します。最終日には「修了証書」をお渡しします。その時には、きっと、マネジメント能力が高まっていることと思います。

なお、本大学院では、県・市町村や企業職員の社会人教育に重きをおき、経営学の理論を踏まえた実践的な問題解決能力を身につけることを目的の一つとしています。短期ビジネス講座をきっかけに、さらに専門的な知識や技術を深めたい方は福井県立大学大学院にもいらしてください。

過去の履修者の声

- ◆ 来年度の履修者の方に、「他の企業の人との討論はためになるので、いろいろな考え方を吸収するように。」
- ◆ 人材育成がテーマで、いかに部下を育てるのか、という観点から受講したが、自分自身が成長するためにはどうすればよいのか？という視点に変わっていた。
- ◆ どれほど社長さんが熱い思いを持っていたとしても、結局は他人が動かなければ何も組織は変わらないのが現実。何事も飛び込んで体験することは非常に大事であり、その体験はシナプスを伸ばすと私は信じています。職業を問わず、まずは一度体験することをお勧めいたします。
- ◆ 経営学・経済学とは縁がなく、入りにくいかと心配したが、受講が進む中で一員となっており、自分でも驚いています。この体験の中で私の向う方向がわかったような気がします。不得意分野だからこそ新鮮に感じ、何かヒントがないものか注意深く聞き、体験、体感し、繋げられる感覚を習えたように思います。今後の仕事に活かして成功させていきたいです。
- ◆ この短期ビジネス講座で職業人として探しているものの答えはおそらく見つかりません。しかし、それを探手段についてのヒントを、様々な先生方の一言一句を聞き逃さなければ「学ぶ」又は「教わる」というスキルを向上させることで得ることができます。
- ◆ これまでの自分の仕事のプロフィールをグループ内で発表し、特に自分が成長させられた時期にフォーカスして説明するというのは、自分でも新たな気付きと確信のようなものが意識できました。
- ◆ 50歳を過ぎたら自分の背中を人に見せられるか。
- ◆ 自分から求めなければ、職場以外の人との交流は限られます。この講座では様々な会社、年齢層の方とも交流ができ、同じような思い、あるいは違いに触れることができ、大変良い刺激になりました。

あなたのビジネスモデルをアップデートする

福井県立大学ビジネススクール 短期ビジネス講座

2016 募集要項

「ヒトづくり再考：理論動向と先端事例に触れる」

開 講 期 間：10月29日(土)～11月19日(土) 10:30～17:30 (1時間の昼食休憩)
全4日(土曜日開催)

場 所：福井県立大学福井キャンパス 共通講義棟 L204教室

企画コーディネーター：福井県立大学大学院経済・経営学研究科長 徳前 元信
福井県立大学経済学部准教授 松下 元則

講 師：福井県立大学教員、学外の専門家と実務家 ※講座内容は、講師の都合で変更となる場合があります。

定 員：25名程度(原則先着順)

受 講 料：29,600円 ※所定の条件を満たす方は、福井県アジア人材基金から最大で半額の助成が受けられます。

短期ビジネス講座2016

「ヒトづくり再考：理論動向と先端事例に触れる」

経済のグローバル化、為替変動、地域格差などの急激な環境変化、そしてそれらに伴う価値観の変化。そうしたうねりに流されるだけでなく、いまま少し立ち止まって経営学の根本を見つめなおしてみませんか。大学で経営学を実践的に学び直してみませんか。

現代の社会は変化が激しく、常に知識や考え方をアップデートしていくことが求められています。ビジネスの現場の変化にあわせて、大学が提供するビジネス教育(商学・経営学関連科目)の内容も変化しています。

本講座では、ケース・スタディやディスカッションを交えながら、近年の理論の動向と先端事例に触れる機会を、受講生みなさんに提供いたします。地元の大学院で**ビジネス教育の学び直し**をすることによって、グローバルにローカルに、そして理論的に、歴史的に…、日々の仕事を少し違った角度から捉え直す「きっかけづくり」をしてみませんか。

■ ビジネススクールならではの「理論」と「現場」の融合

■ 新たな人的ネットワーク形成のチャンス

■ 受講期間は1ヶ月間。4週連続、土曜日開講

講座概要・お申し込み方法	
開講期間	10月29日(土)～11月19日(土) 10:30～17:30 (1時間の昼食休憩) 全4日(土曜日開催)
場所	福井県立大学福井キャンパス 共通講義棟 L204教室
企画コーディネーター	福井県立大学大学院経済・経営学研究科長 徳前 元信 福井県立大学経済学部准教授 松下 元則
講師	福井県立大学教員、学外の専門家と実務家 ※講座内容は、講師の都合で変更となる場合があります。
定員	25名程度(原則先着順)
受講料	29,600円 ※所定の条件を満たす方は、福井県アジア人材基金から最大で半額の助成が受けられます。
受講申込方法	受講希望の方は、受講申込書に必要事項を記入し、下記までお送り下さい(FAX可)。受講決定後に振込依頼書を送付しますので、これにより受講料を振り込んで下さい。
申込期間	2016年9月1日(木)～10月21日(金)【必着】
申込先・お問い合わせ先	福井県立大学 教育推進課 〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1 TEL 0776-61-6000 (内線 1022)担当/柴野・川村 FAX 0776-61-6012

Curriculum

10/29	開講式 企業におけるキャリアの作り方 講師 飛田 正之 (福井県立大学経済学部准教授)
10/30	企業における人材育成、人材開発は、それぞれの企業の展開に適した方式があります。そこでこの講座は、企業の展開方式別(海外展開、新規事業の展開など)、そして仕事分野別(人事、営業分野、研究開発分野など)に人材開発の方式について、いくつかのケースを交え、皆さんの企業で人材育成を考える際のヒントになるよう学んでいきたいと思ひます。

10/31	成長する企業の人材育成の実際 講師 中沢 孝夫 (福山大学経済学部教授・元福井県立大学地域経済研究所所長)
11/01	人材こそが経営資源の基礎です。企業継続は「顧客から選ばれ続ける」技術やサービスを開発することによって支えられますが、それは人材育成によって担保されます。主に中堅・中小企業を中心に、イノベーションによる転換を果たし、発展している事例を紹介し、「人と企業の成長」を講義します。
11/02	社会人大学院への招待 講師 徳前 元信 (福井県立大学経済学部教授)
11/03	前半では、社会人大学院としてのビジネススクールの学びの意義を説明する。現場で見つけた研究の種をどう分析し、どう育てるのか、また異世代・異業種の人的ネットワークを通じた視野の広がりを通じて社会人大学院への招待を行う。後半では、その一例として「現金を生みだす力としてのCCC(キャッシュ・コンバージョン・サイクル)」の活用例(トヨタやアップル)と、供給網の危機など経営の危うさの事例を説明する。

1st

11/05	日本経済の変遷と今後求められる企業価値 講師 南保 勝 (福井県立大学地域経済研究所教授)
11/06	戦後71年を過ぎた日本経済の成長過程を振り返るとともに、その中で起きたマネジメントの変化を整理し、今後求められる企業価値を事例研究中心に明らかにしたい。従って、テーマは、Ⅰ. 戦後日本の経済成長と、その中で起きた構造変化の整理、Ⅱ. その中で、変化した企業のマネジメントを整理、Ⅲ. 今後求められる企業の経営スタイルとは(事例研究)。以上の内容で進めたい。
11/07	地域創成のためのパートナーシップ戦略：エー・ピーカンパニーのケースを中心に 講師 佐藤 善信 (関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授)
11/08	エー・ピーカンパニーは主力業態の「塚田農場」という居酒屋チェーンの展開によって急成長してきた。同社の強みは、宮崎県の「地頭鶏(じとっこ)」という隠れた地鶏を売りにしたメニュー構成と接客担当者の特殊な訓練方法にある。そのビジネスモデルの特徴は、地鶏の産地とパートナーシップを提携し、同社の売り上げが増加すれば、産地の雇用を中心とした経済的な成長が見込まれるという一種のソーシャル・ビジネス的要素にある。同社のケースを深掘りすることによって、地域創成のためのパートナーシップ関係について考察する。

2nd

11/12	アカデミックと実務：マーケティング戦略を学ぶ 講師 北島 啓嗣 (福井県立大学経済学部教授)
11/13	社会人が学ぶときに、自らの実務経験とビジネス書その他が語ることと、少し距離がある、と感じたことはないでしょうか? さらにいえば、アカデミックな理論とはさらに距離がある、と感じられるかもしれません。今回はこの問題を取り上げ、アカデミックに学ぶということがどのような意味を持つのかをディスカッションを通じて考えていきたいと思ひます。
11/14	民活インフラ事業の在り方について考える 講師 安間 匡明 (福井県立大学客員教授・㈱国際協力銀行 取締役 企画管理部門長)
11/15	新関西国際空港のコンセッション事業や愛知県の有料道路にみられるように、我が国でも公共インフラの管理運営業務を民間事業者担わせる動きが少しずつ進展してきている。欧米のみならずアジアや中南米においては、より加速化された形で同様の動きがみられる。民活インフラ事業の現状と課題についてわかり易く紐解く。
11/16	最近の若手社員をどう育てるか：やる気アップ法から新型うつ、発達障害「グレーゾーン」への対応まで 講師 廣川 進 (大正大学心理社会学部臨床心理学教授)
11/17	新型うつや適応障害、発達障害など職場の不適応は軽症化するもの多様化が進んでいる。診断がつくほどではないが、軽度で本人も周囲も気づきにくいのが対応に困っているケースに職場はどうつきあっていけばいいのかが。職場でのコミュニケーションの取り方を変えて「育て直し」ていくことは、すべての若手社員にとっても必要なことになってきた。職場ストレスや人材育成の観点からモチベーションを上げるコミュニケーションのスキルも紹介する。

イタリアではなぜ大企業よりも家族経営が成功するのか

11/18	講師 芦澤 理恵 (イタリア語通訳・翻訳家)
11/19	イタリア経済を支えているのは大企業ではなく、多数の家族経営による零細・中小企業である。現在世界に名を知られたイタリアンブランドのほとんど全ては個人が起業し、たとえ世界展開するまでに成長しても家族経営が維持されている。その理由は何なのか? できる限り具体的な事例を挙げながら、御上を決して信用せずあくまで個人を尊重するイタリア人気質、その背景にある統一国家としての歴史の短さなどを掘り下げたい。そして私たち日本人がそこから学べることを考えてみたい。

11/19	アジア新興経済と「東アジアトライアングル」の新基軸：日本は新興アジアにどう向き合うべきか 講師 唱 新 (福井県立大学経済学部教授)
11/20	最近のアジアでは、新興経済の台頭により、従来、日米欧などの先進国主導の「アジア太平洋トライアングル」から中国・ASEANなどの新興国(地域)主導の「東アジアトライアングル」へとシフトしつつある。中国・ASEANを基軸とする「東アジアトライアングル」は、1. 国際生産ネットワークの深化と高度化、2. 中間層の拡大による消費市場の形成、3. AIBの設立によるアジア金融資本市場の整備と拡大など、三つの面で進展していきとみられているが、本講義はその現状の解明と将来展望をしたい。
11/21	バイオものづくりにおける産学官地連携 講師 宇多川 隆 (福井県立大学名誉教授、味の素(株)元取締役)
11/22	味の素(株)は、東京大学池田菊苗博士の発明を鈴木三郎助が1909年に事業化したことに始まる。産学連携の先駆けであり、そのDNAは今も伝承されている。過去110年間にグローバルに事業を展開し、1兆円企業に成長した背景には、産学官との連携とともに地域との様々な連携が必要であった。講師が味の素(株)および福井で取り組んだ新技術・新製品開発を検討材料に、事業展開に必要なものは何かを考える。
11/23	受講修了証授与式

4th